

放射線診断・IVR科、放射線治療科部長に樋渡教授が着任



放射線診断・IVR科
放射線治療科
樋渡 昭雄 部長

九州大学から部長（教授）として着任しました樋渡昭雄（ひわたし あきお）です。放射線診断部門ではCT、MRI、超音波、核医学検査等最先端の診断機器を駆使しながら患者さん毎に的確な画像検査を行い、診断報告書作成や診療各科とのカンファレンスを通じ、医療の質向上を目指して日々奮闘しています。IVR（Interventional radiology）は画像下治療とも称され、カテーテル（管）を用いた血管内治療や、画像誘導下に体外から病巣を直接穿刺するなど、比較的体の負担が少ない治療法です。外傷性の出血等急患症例にも24時間365日対応しています。放射線治療も最新鋭の治療機器を多数有し、様々な疾患に対応可能で、国内トップレベルの症例数、治療成績を誇ります。患者さん第一に、大学病院にふさわしい先進的で確実な医療を行う所存です。何卒よろしくお願いいたします。

書籍「名市大ブックス」シリーズ好評発売中！新刊をご紹介します。

第11巻「いきいき心臓とはつらつ生活」は、日本人の死因上位でもある心臓の疾患や血管病に焦点を当て、最新の研究や手術などの治療法について、執筆者の各分野の専門知識をわかりやすく解説しています。

第12巻「女性の新しいライフスタイルと最新医療」は、人生における女性特有の身体的・精神的な疾患を取り上げ、正しい知識と心構えを身につけることで豊かで健康な人生を送ることを推進するための1冊です。

名市大病院、東部・西部医療センター内のコンビニ・売店やお近くの書店、またはインターネットにて好評発売中です。



価格
1,100円(税込)



薬剤部 からの お願い

「かかりつけ薬局・薬剤師」のススメ

当院では、外来のおくすりは院外処方をお勧めしています。この院外処方のメリットを最大限に生かすことができる「かかりつけ薬局・薬剤師」をご存知でしょうか？「かかりつけ薬局・薬剤師」を決めることで、以下のようなメリットがあります。まずは普段使っている薬局にお気軽にご相談してみてください。

くすりの内容をまとめて管理してもらうことで、副作用や飲み合わせなどが確認できる。

必要に応じて医師への問い合わせや提案などを行ってもらえる。

調子が悪いときに、受診が必要かどうかの相談に乗ってもらえる。

病院のくすりだけでなく、市販薬やサプリメントについての相談もできる。

不安なことがあったら、休みの日や夜間でもくすりの相談ができる。

手元に残っている病院のくすりを確認してもらえる（くすりの無駄がなくなる）。

さくらほっと NEWS vol.57 令和4年秋号



名市大の リハビリテーションを ご紹介します！ ...2

名市大病院のチカラ Vol.253

リハビリテーション技術科のスタッフ

放射線診断・IVR科、放射線治療科部長に
樋渡教授が着任4
名市大ブックス新刊 好評発売中！4
「かかりつけ薬局・薬剤師」のススメ4

初診料加算額・再診料加算額の改定のお知らせ

当院では令和4年10月1日より初診料加算額と再診料加算額の改定を行いました。

初診料加算額は、紹介状を持たない初診の患者さんに、診療費とは別に請求する費用です。**複数科受診の場合はそれぞれに紹介状が必要となります。**

また再診料加算額は、症状が安定し、医師より逆紹介する旨の説明を受けたが、当院での継続受診を希望された患者さんに対して、通常の診療費とは別に受診の度に請求する費用です。

	令和4年9月まで	令和4年10月1日以降
初診料 加算額	5,500円(税込)	7,700円(税込)
再診療 加算額	2,750円(税込)	3,300円(税込)

当院を受診される際には、かかりつけ医等からの紹介状をお持ちください。

名市大のリハビリテーションをご紹介します！

「リハビリ」という言葉はよく知られていますが、リハビリテーションには理学療法士(PT: Physical Therapist)、作業療法士(OT: Occupational Therapist)、言語聴覚士(ST: Speech Therapist)の3つの専門職種があることを知らない方も多いと思います。PTは病気やけが、高齢、障害によって運動機能が低下した方に対して、起き上がる、立ち上がる、歩くなどの基本動作能力の回復を図るため、運動の指導や物理療法を行います。OTは食事、着替え、トイレ動作、入浴動作などの応用動作能力の獲得のための動作練習や認知機能障害、精神機能障害に対する治療、ケアを行います。STは口や喉などの筋力低下や麻痺などでうまく食事ができなくなる嚥下障害や声をうまく出せない構音障害、言葉を上手に使えなくなるような言語障害に対して、嚥下訓練やコミュニケーションの練習を行います。

当院では脳卒中や神経変性疾患などの脳血管疾患、人工関節や骨折などの整形外科疾患、肺炎や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患、心筋梗塞や心不全などの心大血管疾患、種々の臓器のがん患者、ICUや低出生体重児などの集中治療が必要な状態の患者さんなど様々な疾患に対してリハビリテーションを提供しております。病気の発症早期や術後早期からの介入を行い、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、日常活動動作の獲得やQOL(生活の質)の向上、社会復帰のお手伝いができるよう取り組んでいます。最近では術後の経過を良くするために、術前から身体機能の評価や運動の指導を行うプレハビリテーションにも力を入れております。

また、立ち上がりや歩行のアシストをしてくれるロボットを使ったロボティクス治療(写真1)、脳に微弱な電流を流し神経活動を調整する経頭蓋直流電気刺激や鏡を見ながら運動学習を促すミラーセラピー(写真2)などのニューロリハビリテーション、飲み込みの力を鍛える低周波治療(写真3)などの先進的なリハビリテーションも行っています。これからも、患者さんに安全で質の高いリハビリテーションを提供できるよう努めてまいります。



写真1: ロボティクス治療



写真2: ミラーセラピー



写真3: 低周波治療

名市大病院のチカラ Vol.25

循環器内科

「ブレインハートチーム」による潜在性脳梗塞に対する経皮的卵円孔開存閉鎖術を開始します

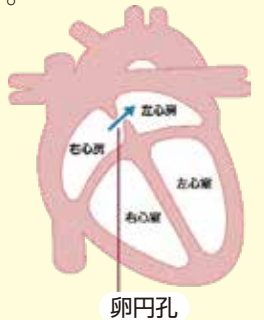
潜在性脳梗塞とは動脈硬化や心疾患など既存の機序で説明がつかない脳梗塞です。その中に、卵円孔(※)が開存しているために、右心系の血栓が左心系に流入して脳梗塞を起こす患者さんがいます。

当院で潜在性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術を行うことが可能となりました。脳卒中専門医による脳梗塞の病型診断と心エコー専門医による卵円孔開存の評価に基づいて、心臓カテーテル専門医が治療を行います。名市大病院のようなハイレベルの専門医が集結する施設において施行可能な治療です。脳卒中診療グループと循環器病診療グループが融合した「ブレインハートチーム」を形成し、国民病の双壁である脳卒中と心臓血管疾患の診療を充実させ、地域医療に貢献いたします。

卵円孔開存閉鎖術を考えるにあたっては心エコー検査によるマイクロバブルテストなど卵円孔開存の診断が必要になります。お困りの患者さんがいらっしゃいましたら構造的な心疾患: SHD

専門外来(担当 伊藤剛)もしくは循環器内科初診外来へご紹介ください。皆様からのご連絡をお待ち申し上げております。

※ 卵円孔: 心臓の右心房と左心房の間にできた穴。通常、出生後自然に閉じる。



精神科

電磁力を用いたうつ病治療装置「Neurostar」名古屋市初導入！



こころの医療センター
久保田 陽介

うつ病は、生涯有病率は14%にものぼり、国民病ともいわれています。従来から薬物療法・精神療法などがありますが、うつ病を発症された方が1年間で完全に回復に至る確率は約70%であり、回復されずうつ病に苦しんでいる多くの患者さんがおられます。令和元年に、難治性うつ病の患者さんを対象に、磁気刺激装置Neurostarを用いた反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS療法)という治療が保険収載され、本年7月にNeurostarが名古屋市内で初めて名市大病院に設置され、このrTMS治療が実施できるようになりました。

rTMS療法は、パルス磁場による誘導電流(渦電流)で特定部位の神経細胞を繰り返し刺激します。視床・海馬・線条体・扁桃体といったうつに関わる経路を回復したり、動きの鈍い神経を回復させることで、うつ病の改善につながる治療法です。6週間の入院で約30回この治療を行います。



rTMS療法
イメージ図



Neurostar

18歳以上でうつ病の診断を受け、抗うつ薬などの薬物療法を受けても改善しないうつ病患者さんが治療対象となります。病状によっては、従来からのうつ病治療である修正型電気けいれん療法という治療を推奨することもあります。